10

ニワトリを1羽食べてしまった?――不定冠詞の有無と対象のカテゴリー化

マーク・ピーターセン『日本人の英語』(岩波新書、1988)に次のような記述があります:

2 鶏を一羽食べてしまった 不定冠詞

'Tis not the meat, but 'tis the appetite makes eating a

-Sir John Suckling

食事を喜ばしきものにするのは 料理にあらず、食欲なり

サー・ジョン・サックリング

a は名詞につくアクセサリーではない

先日, アメリカに留学している日本人の友だちから手 紙がきたが、その中に次の文章がいきなり出てきた.

Last night, I ate a chicken in the backyard. (昨夜, 鶏を1羽[捕まえて,そのまま]裏庭で食べ[てしま った.)

これをみたときの気持は非常に複雑で、なかなか日本 語では説明できないが、ちょうどあてはまる英語の決ま をみれば、How forcible are wrong words! とも思わ り文句でいえば, I didn't know whether to laugh or to れる. cry. という気持であった.

おそらくその文章で友だちがいおうとしたのは、アメ

2 鶏を一羽食べてしまった――不定冠詞

べたこと(つまり、I ate a chicken でなく、I ate chicken)にすぎないと、私は判読したが、不思議なことに、 Last night, I ate a chicken in the backyard. という文章 は,正しい英文としても,間違いの英文としても,傑作 といってよいものである。正しい英文として読めば、簡 潔で、とてもヴィヴィッドで説得力のある表現になるの である。夜がふけて暗くなってきた裏庭で、友だちが血 と羽だらけの口元に微笑を浮かべながら、 ふくらんだ腹 を満足そうに撫でている――このような生き生きとした 情景が浮かんでくるのである。もし彼が、chicken(鶏 肉)とa chicken(ある1羽の鶏)の意味の違いを認識し たうえで、わざとそう書いたのなら、帰国せずに、文筆 によってアメリカでよい暮しを立てられるであろう。

しかし、この文章が間違いであるとしても、aという 文字の有無だけでどんな変化が起こりうるかを示す例文 として、これほどよいものは少ないと思う。聖書は、 How forcible are right words!(正しい言葉はいかに力 のあるものか;ョブ記:6.25)と教えているが,英語のネ イティブ・スピーカーがとても発想しきれない彼の言葉

日本の英文法書では"a(an)"の「用法と不使用」を論 じるとき「名詞にaがつくかつかないか」あるいは「名 リカの普通の backyard chicken barbecue で鶏肉を食 詞に a をつけるかつけないか」の問題として取り上げる

日本に長く在住している英語ネイティブの多くは日本人のヘンな英語に慣れているので、単に chickenと すればよいところを a chicken と書いてあってもそんなに気にならないこともあるかもしれませんが、 一般の英語ネイティブにとっては、I ate a chicken. という文は(かなりの)違和感を持って受けとめられる 可能性が高いものだと言ってよいでしょう。

われわれ英語学習者はしばしば、名詞に冠詞を「つける」とか「つけない」とか言ったりしますが、 ピーターセン氏も言っているように、英語の不定冠詞の a/an は決して「名詞につくアクセサリー」 ではありません。もし単なるアクセサリーだったら、それはオマケに過ぎないことになりますが、 不定冠詞の有る無しは、実は後ろの名詞が表す対象のカテゴリー化に関わるものなのです。すなわち、

「不定冠詞+名詞」の場合は、名詞が表す対象が「単一の個体」として認識されていることを表すが、 不定冠詞がなく単に「名詞だけ」の場合は、名詞が表す対象が「個体としての明確な形や境界」を持たず、 「連続体」として認識されていることを表す (cf. 久野・高見 2004:3)

このことから、「鶏 (ニワトリ)」という1羽の鳥を表す場合であれば a chicken であり、食べ物としての 「鶏肉/チキン」を表す場合であれば通常は(不定冠詞のない) chicken になるということです。 英語の名詞 chicken はこのように対象のカテゴリー化のあり方によって二通りの使われ方がある わけですが、次のような場合も同様です:

- a pineapple (パイナップル1個)/pineapple (パイナップルの一部、スライス[カット]したパイナップル)
- a hair (髪の毛1本)/hair (頭髪(全体))
- a glass ((液体を入れる)グラス[コップ]1個)/glass (ガラス)
- a speech ((1つの)スピーチ[演説])/speech (話すこと、話し言葉、言語能力)

さらに、ちょっと気味が悪いのですが、通常は「単一の個体」を表すものとして不定冠詞とともに 用いられる名詞が、「個体性の喪失」によって不定冠詞なしで用いられた次のような例もあります:

There was cat all over the road. (---あえて日本語には訳しません)

この場合、もしcat を a cat に換えたら semantic anomaly (意味的に変なこと) になってしまいます。

参考文献 マーク・ピーターセン『日本人の英語』(岩波新書、1988年) 久野暲・高見健一『謎解きの英文法 冠詞と名詞』(くろしお出版、2004年)